

皆様、こんにちは。

気が付けば、もう7月ですね。

梅雨もいつしか終わり、もう、夏休み目前。

今年は、特に早く感じますね。

夏休みには、暇校では、トイレの改修工事があり、昨年盛んに取り組んだ夏季休業中の行事が行えずとなりました。😞

ちょっと、寂しいですが、9月の登校では、綺麗になったトイレ環境が見られることを楽しみにしたいです。😊

さて、夏休み前に、PTAでは、様々な活動を行っています。

まずは、PTA主催ではありませんが、今年も、6月27日に行われました学校給食試食会に役員が出席いたしました。

参加者は、9名で、中学部・高等部共に参加頂いていました。中には、お父さんもご参加頂いており、給食への関心の高さが伺えました。進行役は、暇校の非常勤としてお勤め頂いています栄養士さんでした。

また、初めに、准校長先生からのご挨拶があり、その後は、各自、お子さんのクラスへとそれぞれ移動し、子どもたちの給食の様子を参観させて頂きました。

子どもたちも、クラスでの活動にも慣れて、手際よく準備している様子でした。

高等部になると、子どもたちの体も大きく、1つの教室で、2つのクラスの生徒が配膳準備をする姿には、教室も狭く感じてしまう状態に見えましたが、生徒たちは、きちんと自分に与えられた仕事をこなして、あっという間に配膳が完了しました。

参観後は、保護者も再び、地域支援室に戻り、今度は、先生方にもお手伝い頂いて、栄養士の先生と保護者で、私たちが試食する給食の配膳を致しました。

給食試食会へ何度も参加されている保護者もおられ、こちらもあっという間に、配膳完了しました。

当日のメニューは、米粉コッペパン、ハッシュド・ポーク、ポテトサラダ、牛乳でした
(写真掲載)



パンは、もちもちで、自校調理でないのに、ハッシュド・ポークは温かくて驚きました！！

また、喫食時には、栄養士の先生とも歓談することができ、楽しい時間を過ごすことができました。その会話から、毎日、栄養士の先生は給食をカメラで撮影されていることも教えて頂き、保護者からも、学校内のホームページへ活用してほしい！と、その場で要望がありました。

給食だけで文字を見て思い浮かべるのは、なかなか想像がしづらいところもあるので、今後は、写真掲載をして頂きたいと思いました。

翌日、実は、こっそり、准校長先生へこのお話をしています。給食の写真コーナーが出来る日も遠くないかもしれません。

給食を喫食した後は、四條畷市の給食センターより 3 名の方にいらして頂き、センター施設内のことや食材について、献立・調理法などお話頂きました。

地場産業にて、食材の調達や敷地内での野菜の収穫などもされていることなど取り組みについてお話頂きました。

実は、本校でも、給食センターと同じく高床式での砂栽培に取り組んでおりまして、給食センターとの結びつきは大きいものがあります。

自校調理と比べてしまいがちですが、今の畷校におかれている分校としての環境や校舎のつくりなどから考えると、府立の学校であるにも拘らず、四條畷市の給食センターから、温かな給食が安全に届けてられていることには感謝の言葉しかありません。

ただ、給食センターの方もおっしゃられていましたが、センター方式ゆえに、『アレルギー対応食（除去食）』が出来ないことなども挙げられ、今後の課題として認識していかなければならないと思いました。

最後に、給食試食会を通じて、給食を一つ作るのにも、多くの方が関わり出来上がっていることを改めて思い知ることができました。

毎日、本当に、ありがとうございます。

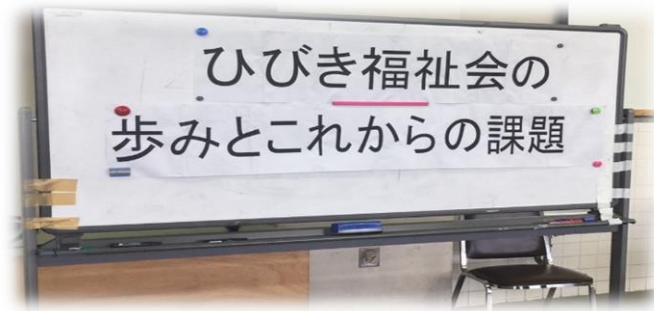
今後も、子どもたちへ安心・安全な給食提供を宜しく願いい致します。

続いては、給食試食会の翌日、6 月 28 日に行われました進路講演会と地区別交流会について、ご報告させていただきます。



今年度より初めて行われることになりました進路講演会ですが、個人懇談や参観と、各

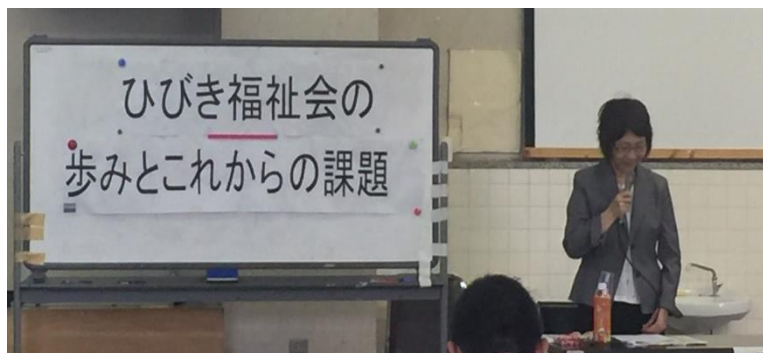
学年行事も続く中、多くの方に当日はご出席頂きまして、また、講師には、東大阪市の『ひびき福祉会』様より、ヘルパーステーションで施設長をされています溝畑喜代子様にお越し頂きまして、『ひびき福祉会の歩みとこれからの課題』という演題にて、ご講演頂きました。



ひびき福祉会は、1977 年当初、東大阪市には、福祉事業所が一つもないところを「学校卒業後に働く場がほしい」「友達がほしい」そんな、家族や当事者の願いから出発された施設で、今年で創立 40 周年を迎えられました。

この40年の歴史を振り返る中で、ひびきの利用者だけの利益を考えるのではなく、障害者福祉の発展に大きく貢献されてきたことや、障がいある人の願いや要求に基づいての事業の発展や制度化されていない事業の展開も行ってきたそうです。

それは、多くの個人や団体との連携や協力があったからこそ、今のひびき福祉会があるとのこと。



そんな、ひびき福祉会は、現在、利用者は 167 名居られ、利用者の高齢化も進む中で、また、その保護者自身の高齢化や片親のみ、病気で入院なども見受けられ、新たな課題にも直面されておられます。

利用者に於いても加齢による課題も出て来ており、支援の取り組みなどを検討されておられます。

他に、なかなか聞きなれない『65 歳問題』についてもお話頂き、介護保険優先原則となり、今まで通所していた事業所が利用できないという大きな制度上の問題を知ることが出来ました。

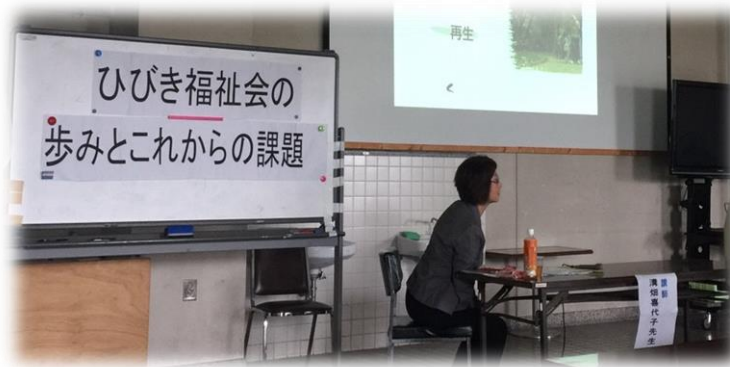
講演の初めには、福祉会の歴史がわかるDVD上映もして頂け、各事業所で過ごす利用者の姿、そして、職員の姿に、40 年間にも繋がり広がってきた施設の良さが見て取れました。

ひびき福祉会は、これからも利用者の声や障害がある人の願いを受けて、新たな事業も行われることと思います。

最近も、この4月より、福祉型の『卒後の学びの場（18歳から通学で来る福祉型の学校）』づくりを、保護者や当事者の声を受けて運動を共に行い、『リープキャンパスひびき』が立ち上げられました。

若者たちの『学びたい』や『青春したい』そんな声に応えて、今までにない事業形態として走り出されたようです。

また、来年度には、『ひびき楽（ら）いふ』という名のショートステイ・日中一時・グループホームなどの事業計画を見込んだ施設も建設中とのことです。



いつの時代も、障がいある方の願いに応えてこられたひびき福祉会の姿には、頭の下がる思いであり、また、保護者として色々と考える機会となりました。

この度は、溝畑喜代子様には、遠くまでお越し頂き、また、貴重なお話をして頂きまして、ありがとうございました。

今後とも、四條畷校へご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、当日は、保護者の皆様にも、沢山ご出席頂きまして、ありがとうございました。

引き続き、これもまた、畷校初となります『地区別交流会』について報告をさせていただきます。

この地区別交流会は、昨年、出席させて頂きました近畿特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合協議会の秋に行われました研修大会にて、他県の支援学校での取り組みを伺い、広域に通学区区となる畷校でも実施して、地域同士の情報交換会が出来ればとの役員の思いから開催を実施させて頂きました。

当日、進路講演会閉会後に、各市別（四條畷校は、四條畷市・大東市・東大阪市一部（高等部のみ）の通学区域となっています）に分かれて、交流会が行われました。

10名を超える市もあれば、少人数での地域もありましたが、顔見知りでも、なかなか話すこともなかった先輩や後輩にあたる保護者と、進路のことや地域の情報や学校通学での質問など、P T A で用意しましたお茶やお菓子を頂きながら、役員の方で、司会進行をさせて頂き、皆で楽しく交流させて頂きました。

高等部3年生の保護者が出席して頂いた市では、近い将来に行うことになる移行申請についてや事業所情報も進路講習会のようなお話を頂くなど、後輩にとっては、とても勉強になりました。

少ない時間の中で行われましたが、どの市からも「また、開催してほしい」という、嬉しい感想やお声を頂けました。

皆様から頂いたお話は、今後活かせるように、教員の皆様とも共有していきたいと思います。

お忙しい中、交流会へのご出席頂きましてありがとうございました。

今年度中にも、第2回目の開催が出来ればと思っております。

その際は、また、ご参加いただきますよう、宜しくお願い致します。

